

午後 I 試験

問 1

問 1 では、プロジェクトの計画作成について出題した。全体としては正答率が高く、おおむね理解されていた。

設問 2 は正答率が低かった。ワークショップでは、W 社パッケージの標準プロセスと現在の業務手順との違いを差異一覧にまとめることになっており、その精度を高めることで後工程での手戻りを防ぐという意図を理解してほしかった。

設問 3(1)は、正答率が低かった。“K 社の投入工数によってスコープが変わる”という設問の内容をそのまま記述した解答や、“MES プロジェクトのスケジュールに余裕がない”という一般論的な解答も多かった。スコープ確定の前提となるワークショップは、K 社が主体となって実施することが大切であり、K 社の投入工数のような T 社では調整できない外部リスク要因を、事前に排除したいという意図を理解してほしかった。

問 2

問 2 では、サプライヤへのシステム開発委託について出題した。派遣契約での実績しかないサプライヤに対して、請負契約で委託する際に注意すべき点については、おおむね理解されており、全体として、正答率は高かった。

設問 3(2)では、問われている内容が^{かし}瑕疵担保責任に基づく活動であることは理解されているようだったが、結合テストで抽出された欠陥に全て無償で対応するという主旨の解答が散見された。瑕疵担保責任の対象は、請負契約で委託した範囲の成果物であることを意識して、正しく解答してほしかった。

設問 3(3)では、委託先のメンバに対する指揮命令権がないことは理解されていた。しかし、委託先の責任者には指揮命令してよいとの誤解があると思われる解答が散見された。請負契約及び準委任契約において、発注側には指揮命令権がないという原則について、正しく理解しておいてほしい。

問 3

問 3 では、単体テストを題材に、テスト効率を維持しながらも、早いタイミングでバグを抽出し、成果物の品質を高める方法について出題した。

設問 2(1)は、正答率が低かった。ウォータフォールモデルの開発における後工程でのバグ抽出時の手戻りに着目して解答してほしかったが、類似バグやプログラムの異常終了を起こすバグに着目した解答や、改修箇所以外の箇所への影響確認を行うテストの不足に着目した解答が散見された。本問では想定し得る様々なバグを取り上げているが、バグを作りこむ要因、その発見方法、影響などについて理解しておいてほしい。

設問 3(1)は、正答率が低かった。テストケースの追加作成によってバグ抽出が増えることを解答してほしかったが、逆にバグ抽出が減少することを想定した解答が多かった。成果物の品質を高めるには、適切な工程で適切な量のバグを抽出することが重要であることを認識してほしい。